

# CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 11 No.11 2009年6月15日号

編集:[editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告:[pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2009 CNA Report Japan. All rights reserved.

## 製品・サービス動向-国内

### ライフサイズ社と日立ハイテク、デュアルディスプレイに対応した低コストHDビデオ会議端末を発表

ライフサイズ・コミュニケーションズ社(LifeSize Communications)と、国内販売総代理店である株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)は、5月21日日本国内向けに新たに低価格のHDビデオ会議システム「LifeSize Express 200(ライフサイズ・エクスプレス)」の2機種を発表。また同時にソフトウェアリリース4.1や製品ラインナップの新しい価格も発表になった。



#### LifeSize Express with Focus (ライフサイズ社資料)

記者向けの新製品発表会は、日立ハイテクノロジーズ本社にて開催され、ライフサイズ社 CEO クレグマロイ氏は、米国オースチンと会場を公衆インターネットで、1080p フルHDビデオ会議システム(LifeSize Room 200)を使い接続、日本側の参加者に新製品と事業の状況について説明した。またその後新製品 LifeSize Express 200 のデモを実施し、マイクロソフト Excel の入力や 3D CAD の表示、720p60fps を実

演した。



#### LifeSize Express with PTZ (ライフサイズ社資料)

「今回の新製品と新しい価格の発表によって、HD がコスト的に難しかったユーザへアピールし、ビデオ会議システムの裾野を広げたい。」(日立ハイテクノロジーズ)

新しい価格は、上位機種の「LifeSize Conference」から、「LifeSize Room 200」、「LifeSize Team 200」、「LifeSize Express」など全機種に及び従来の価格より下げより導入しやすい価格に設定したという。

| 製品機種                    | 新価格        |
|-------------------------|------------|
| LifeSize Conference 200 | 別途問い合わせ    |
| LifeSize Conference     |            |
| LifeSize Room 200       | 260 万円     |
| LifeSize Room           | 220 万円     |
| LifeSize Team 200       | 185 万円     |
| LifeSize Team MP        | 165 万円     |
| LifeSize Express 200    | 798,000 円～ |
| LifeSize Express        | 698,000 円～ |

\*記者発表会資料をベースに CNA レポートにて作成

今回発表された LifeSize Express 200 は、パンチルトズーム機能付きカメラと小型マイクの「LifeSize Express 200 with PTZ」(価格 898,000 円)と、組み込み型マイクロフォンを備えた固定焦点カメラタイプの「LifeSize Express 200 with Focus」(価格 798,000 円)。製品ラインナップの中では低価格ローエンド機種にあたる。「他社同等のシステムと比較して半分以下の価格。」(ライフサイズ社)

また今回の新製品の大きな特長として挙げる、デュアルディスプレイにも対応。「この価格帯で搭載した機種は業界初。要望が強かったので対応した。」(ライフサイズ社)2つの HDMI ポートに、新たに DVI-I をサポート。またディスプレイ表示するコンテンツデータの解像度は、WXGA(1280x768)までサポートし、「文書、ビデオ、静止画などのデータとコンテンツも、容易に高解像度で共有できる。」(ライフサイズ社)さらにデュアルモニターH.239 にも対応する。

通信プロトコルについては、H.323、SIP(IPv4 と IPv6)に、また通信帯域は、128kbps から 2Mbps に対応している。映像符号化方式は、H.261、H.263、H.263+、H.264 に、音声符号化方式は、G.711、G.722、G.722.1C(Polycom Siren14)、G.728、G.729、MPEG-4AAC-LC に対応。

映像については、HD 720p30 フレーム/秒の送受信が可能で、受信だけであれば 720p60 も可能。また 50 種類の解像度にも対応。「これによりいかなる帯域においても最適な品質を提供し優れた相互運用性を実現できる。」(日立ハイテクノロジーズ)

その他、音声アドオン機能、H.235 暗号化、NAT ファイアウォールトラバーサル、LDAP(H.350)、14 カ国語サポートなど対応している。

一方、ソフトウェアリリース 4.1 の特徴については以下の通り。ただし、これらは、今回の新製品に既に実装されている。

(1)LifeSize Team 200 と Express 200 において、720p60 のデコードが可能になり、サポートする全解像度に加えて、1280x720p の解像度で毎秒 60 フレーム/秒のビデオが受信可能になる。

(2)LifeSize Room および Team MP における 4 拠点多地点

時での画面レイアウトの選択の幅を拡大した。

その他、デュアル・ビデオ・サポート、SDES のキー交換をサポート、Microsoft OCS のプレゼンス機能との統合強化、ローカルディレクトリ管理などの管理機能強化などがある。

|        | Express 200   | Team 200              | Room 200                     |
|--------|---|-----------------------|------------------------------|
|        | 720p30 HD   |                       | 1080p HD                     |
| 中核機能   | バーチャルマルチウェイ<br>HDプレゼンテーション<br>デュアルHDディスプレイ<br>デジタル入出力<br>複数の音声入力オプション |                       |                              |
| 付加価値機能 | 音声アドオン<br>(3 拠点通話)  | 4 拠点 CP モード<br>HD MCU | 6 拠点 CP/VAS<br>フル HD MCU     |
|        | シングル HD カメラ   | デュアル HD カメラ           | 6Mbps スループット<br>シリアル I/F 管理  |
|        | 2Mbps スループット  | 4Mbps スループット          | I/O-ビデオ入力<br>(アナログを含む)<br>追加 |
|        |   |                       | I/O- 音声入出力の追加                |

\*ライフサイズ社作成資料をベースに CNA レポート・ジャパンで作成。CP・・・多画面分割、VAS・・・音声自動切り替え。

今回の発表会では、事例もいくつか紹介され、e ラーニングや医療での活用、さらにライフサイズ社での活用などがあつた。e ラーニングでは、HDのひとつの効果として、黒板の文字が従来の SD(HDではないビデオ会議端末)端末では見えなかったが、HDではよく見えるようになったと言ったことや、病院での活用(米国オハイオ州)では、HDビデオ会議を活用することで未熟児の救急車による搬送が半分になった。(映像があるため搬送すべきかどうか事前に判断しやすくなったということから)。さらに、ライフサイズ社社内では、ワールドワイドに 300 名ほどの社員間(北米以外が全体の 6 割)のコミュニケーションにHDビデオ会議を活用している。「当社は規模が大きくはないためとくにこういったコミュニケーションツールがないと事業が

展開できない。ビジネスのグローバル化はビデオ会議促進のドライバーになっていると実感している。」(ライフサイズ社)

ライフサイズの売上の伸びは、ビデオ会議業界の成長率よりも高く、昨年度は 140%を記録した。実績として、80 カ国 6,000 社の企業に 2 万台以上の製品を出荷したという。

「2007 年 4 月に国内総代理店契約を締結し、HDビデオ会議システムの納入実績を上げてきた。景気が低迷している状況であっても過去半年日本のビデオ会議市場は、成長を継続してきた。当社としても、今後も販売パートナーとの良好な関係を維持すると同時に、パートナーの拡張を継続してゆき、ライフサイズ製品の国内での浸透をさらに図っていききたい考えだ。」(日立ハイテクノロジーズ)

### リードテックジャパン、北米で数万台出荷実績の SIP 対応ポータブル H.264 ビデオフォンの日本での展開強化



H.264 ビデオフォン LR8A10(リードテックジャパン資料)

「アメリカでは、IP コミュニケーションサービスや聴覚障害者向けサービスで数万台を出荷している実績がある。」(リードテックジャパン)

台湾の Leadtek 社は、北米で実績の上がっている SIP 対応ポータブル H.264 ビデオフォン「LR8A10」の日本市場での販売展開を行っている。既に同社では、電話機タイプの IP ビデオ電話機「XTP8886」などを提供しており、LR8A10 は、XTP8886 と同じく同社が販売している IP-PBX ソリューシ

ョンで連動する端末になる。LR8A10 は新たにラインナップに追加されるものになる。音声通話・多地点通話、テレビ電話、ストリーミングの他、遠隔カメラを使用すると遠隔監視にも活用できる。



LR8A10 は、ビデオフォンではあるが、通話以外にも、ウェブブラウザ機能、フォトシェアリング(画像ファイル表示や相手方端末への送信、JPEG と BMP に対応)、アドレスブックなどの機能がある。またシステム管理面については、LR8A10 のファームウェアはネットワーク経由でダウンロードし自動インストールされる仕組みを提供している。

通信部については、映像コーデックとして、H.264 と H.263、解像度は、CIF と QCIF。一報、音声コーデックについては、G.711、G.723.1、G.729ab、GSM、AMR-NB、iLBC に対応している。

LR8A10 は、1kg 強程度の筐体でタッチメニュー式の 7 インチアクティブマトリクス TFT LCD ディスプレイ(WVGA 800x480 ピクセル)を採用している。持ち運びに便利なサイズと重さで、基本的に画面に表示されるメニューを指で押さえたりすることで、操作が行える。

本体には、ディスプレイが中央にあり、その上部には、CMOS カメラとマイクとその両脇にライト部、そして、ディスプレイの両サイドには、スピーカが内蔵されている。ライト

は、聴覚障害者が、着信がわかるようにライトが点滅するようになっている。

今回リードテックジャパンの日本オフィスにおいて公衆インターネットを使って台湾のリードテック本社とテレビ電話デモを拝見した。LR8A10 のディスプレイ上には、台湾側の映像と自画面(自分側を表示した画面)が 2 つ隣同士にならび、自分の表情も確認しながら相手とコミュニケーションができるようになっている。

あらかじめアドレスブックに登録していた台湾側の番号を選択するとすぐに相手につながりハンズフリーで会話が行えた。公衆インターネットでありながら映像と音声には乱れはなかった。ちなみに、パケットロスなどのネットワーク情報も参照することが可能。

端末の説明に戻るが、本体背面には、映像と音声の入出力端子を備える。映像出力では、テレビモニターやプラズマディスプレイ、音声では、スピーカやヘッドセットなどに使える。また USB 2.0 や SD カード用のスロットもある。

ちなみに、外部ディスプレイと接続する場合、操作を簡単にするために、リモコンも提供されている。映像は NTSC、PAL 両方に対応。

LR8A10 のネットワーク端子には、有線 10/100 イーサネットと無線 LAN 内蔵(802.11 b/g)のポートを持っている。無線 LAN 環境ではワイヤレスで持ち運んで VoIP やテレビ電話が行える。

クレードルは、電話を使うためだけでなく、LR8A10 本体の充電にも使う。LR8A10 の内蔵バッテリーは、再充電可能なリチウムイオン電池が使われている。フル充電で、待ち受け 3.5 時間、連続通話 1.5 時間に対応している。

本体のカラーは、ホワイトにて提供する。

「日本国内の通信キャリアやインターネットサービスプロバイダ、あるいは、システムインテグレーターなどと共同で付加価値の高いソリューションを顧客に提供できればと考えている。」(リードテックジャパン)

関連記事:Vol.10 No.9 2008 年 4 月 15 日号 p.7-9

## NTT アドバンステクノロジー、ラドビジョン社の NGN 機器・サービス開発可能な SIP ツールキットのバージョン 5.5 を発表

NTTアドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)は、ラドビジョン社(Radvision)が開発し、国際規格 RFC3261(SIP)に対応した通信ミドルウェア開発向け「SIP ツールキット」の最新バージョン 5.5 を、5 月 22 日よりリリースした。SIP ツールキットを使用すると、NGN 対応機器・サービスの開発が容易に可能になる。

バージョン 5.5 に追加された主な機能は、以下の通り。

(1)最新 3GPP IMS Release 8、TISPAN、Packet Cable 2.0 に対応。(2)対応可能 P ヘッダ、P ヘッダパラメータを追加、(3)マルチコアプロセッサをサポート、(4)マルチキャストをサポート、(5)対応 OS に Wind River Linux、ITRON、Android、Windows 2008 Server を追加。

SIP ツールキットの採用は、日本を含め世界 60 カ国以上のベンダーで採用され、RFC3261 準拠のネットワーク・機器との接続実績ならびにキャリア IMS/MMD/NGN での接続実績があるという。日本では、NTT アドバンステクノロジーが代理店として提供している。また技術サポートも 2001 年から実施。

## 製品・サービス動向-海外

### Vidyo 社、2,000USD を切る低 HD コストエントリーモデル端末と、HD 多地点機能ポート単価を 1,000USD で提供

米 Vidyo 社は、コストを抑えたエントリーモデルのビデオ会議システム「HD-50」を、またあわせて、HD ビデオ会議の年間ポート利用単価を 1000 ドルで提供すると発表した。(5 月 19 日)

HD-50 は、既に同社から販売されている「HD-200」と「H-100」の上位端末に対して、さらに導入しやすい低コストモデルとして追加される機種。これにより、同社が提供する端末は、3 機種 of 端末と PC 対応ソフトウェアクライアントとなる。

HD-50の価格は、H.264/SVC 720p HD画質、デュアルスクリーンをサポートしながらも、1,995USDで提供する。デュアルスクリーン機能とは、2つのモニターを使って、参加者の顔と共有する資料をそれぞれに表示することが可能な機能。

その他では、USB対応のHDビデオカメラ、IRリモートコントロール、VidyoPortal管理のアドレス帳などにも対応する。アドレス帳は、VidyoPortal側で一元管理するため、端末から新たな通信先を登録する必要がなく、常に最新の状態を保てる。

「2000USDを切るHDのビデオ会議端末は業界初だ。初期費用的にもランニングコスト的にもコストパフォーマンスは高いと自負している。」(Vidyo社)

さらに、多地点接続処理を行うVidyoRouterのポートライセンス単価(年間利用料ベースで提供)を1000USDにすると発表も行った。

従来のビデオ会議システムは、SDベースのものがすでに多数導入され現在稼働している。それに加え、専用端末以外にも、デスクトップPCのユーザまでHDを広げるのはコスト的に難しいという認識が一般的だ。

そういった認識に対して今回のプランは、HDへの動機付けをねらったところに、同社の戦略的な意味がある。今回Vidyo社が発表したHDでのポート単価は、従来の市場の一般的動向からすると非常に低コストに抑えられているからだ。

「1年目HDで利用いただければ、2年目もかなりの割合で、HDで継続利用していただけると期待している。なぜなら、一度HDを1年も経験すれば、普通、それ以下の品質に戻りたくなるのではないかと考えるからだ。」(Vidyo社)

しかし、2年目以降どうしてもSDに戻したいというユーザも出てくる可能性はある。そうなると、コストや手間がかかる場合、そもそも最初の時点でユーザが導入を躊躇するかもしれない。

そのため、ポート単価を低価格にするだけでなく、初年度のHDの利用をリスクフリーにした。つまり、次年度仮にSD

に戻す場合でも、追加費用なしでSDオプションに変更し、以後無料で利用できるようにした。そうすることで、ユーザのHD導入を促進できると同社では考えている。

Vidyoのビデオ会議ソリューションは、VidyoPortal(Vidyo端末の管理や統合を行うシステム)やVidyoRouter(多地点接続機能を提供するシステム)を通して各端末間が通信する仕組みを取っており、その他H.323との通信を提供するゲートウェイなどもオプションで提供している。

## 事業動向-国内

### ネットマークスとタンバークが販売代理店契約を締結

株式会社ネットマークス(東京都江東区)とタンバーク社(日本法人:日本タンバーク株式会社、東京都港区)は、販売代理店契約を締結したと発表。(5月21日)

ネットマークスは、同社の基盤ソリューションのひとつであるユニファイド・コミュニケーション(UC)の強化を通してさらなる事業拡大を図る。

同社は、5月からタンバーク社ビデオ会議ソリューションの取扱いを開始。また帯域管理やネットワーク負荷を考慮したネットワーク設計・運用サービスも提供する。その中で、ネットマークスの有する中国や東南アジアの現地法人を活用することで短期間での構築や現地における運用サポートも可能という。

両社は、共同プロモーションなどを含めたパートナーシップの強化を行い、HDビデオ会議システムをはじめとしたユニファイド・コミュニケーション市場の活性化・拡大を促進していく考えだ。

(次ページ続く)

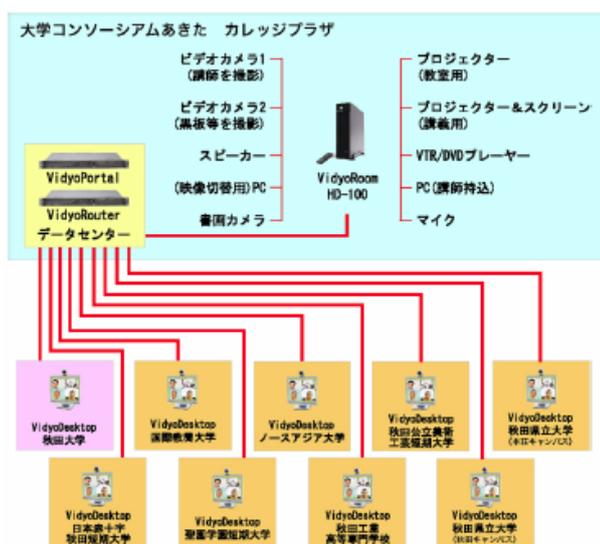
## 導入・利用動向-国内

### 秋田大学など参加の遠隔講義プロジェクトが Vidyo ビデオ会議ソリューションを採用、VTV ジャパンとフォラックス教育が納入

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)と株式会社フォラックス教育(秋田県湯沢市)は共同で、国立大学法人秋田大学(秋田県秋田市)をはじめとする秋田県下8校9拠点と、「大学コンソーシアムあきた」の拠点であるカレッジプラザに、Vidyo 社製ビデオ会議ソリューションを納入したと発表。

Vidyo 社のソリューションを活用して、同じ内容の講義を受講できるようにしたり、高校生を対象とした大学授業の受講の機会を提供したり、または一般社会人を対象とした公開講座を学校間で遠隔で実現できるようにする。今年10月から開講予定。

遠隔講義は、メイン講義会場としてのカレッジプラザから Vidyo により、秋田大学、秋田県立大学(秋田キャンパス、本荘キャンパス)、国際教養大学、ノースアジア大学、秋田公立美術工芸短期大学、日本赤十字秋田短期大学、聖園学園短期大学、秋田工業高等専門学校(8校9拠点)に接続してさまざまな講座を配信する形で行われる。



システム構成図 (VTV ジャパン資料)

Vidyo 社のソリューションに決定した理由としては、講師の

表情や黒板の文字、書画カメラの映像表示が従来の SD よりも可能な、H.264/SVC HD に対応した画質であること、また通常のインターネットを使用しても、ネットワークの通信状況に影響されずに安定した映像伝送を行えるかといった点などが挙げられる。

今回の遠隔講義は、「プロジェクト 4A(フォー・エー)」が大学コンソーシアムあきたと提携し実現する。

プロジェクト 4A は、文部科学省認定の平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」の一環で、秋田県の高等教育機関が連携して、「秋田を研究する」、「秋田を学ぶ」、「秋田で学ぶ」ことを支援する平成 20 年度から新規に開始したプロジェクト。既に述べた 8 校が参加している。国交私立大学間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することによって、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図る目的を持つ。

一方、大学コンソーシアムあきたは、県内の大学等が連携・協力することにより、それぞれの教育・活動を活性化するとともに、その成果を地域社会に還元し、地域の発展に貢献することを目的として平成 17 年 3 月に設立された団体。

フォラックス教育は、秋田県湯沢市に 1995 年に設立。学校教育用のパソコン教育支援システムの企画・設計・施工・販売の他、ソフトウェアの受託開発を手がける。導入実績は、東北に留まらず、関東から沖縄まで全国にある。

VTV ジャパンは、2008 年 10 月より Vidyo 社ソリューションの日本国内第一号の販売代理店。

### プロジェクト 4A

<http://www.gaku.akita-u.ac.jp/project4a/>

### 大学コンソーシアムあきた

<http://www.consortium-akita.jp/>

(次ページ続く)

## 市場動向

Wainhouse Research 社、2009 年第一四半期  
ワールドワイドビデオ会議市場統計発表

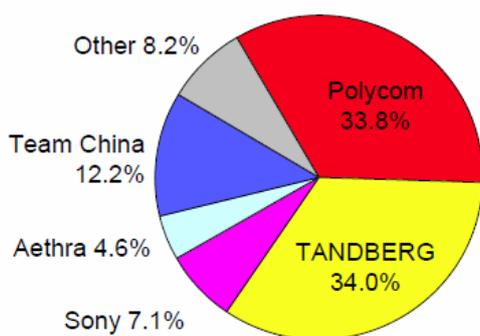
米会議システム専門の調査会社 Wainhouse Research 社 (ウェインハウスリサーチ) は、2009 年第一四半期ワールドワイドビデオ会議市場の統計を発表した。

|      | 08 年<br>Q1 | 08 年<br>Q4 | 09 年<br>Q1 | 対前 Q<br>四半期 | 対前年<br>比 |
|------|------------|------------|------------|-------------|----------|
| R 売上 | \$280.4    | \$342.2    | \$258.7    | -24.4%      | -7.7%    |
| E 売上 | \$28.2     | \$32.6     | \$26.2     | -19.6%      | -7.1%    |
| 合計   | \$308.6    | \$374.8    | \$284.9    | -24.0%      | -7.7%    |
| I 売上 | \$67.4     | \$107.1    | \$83.34    | -22.2%      | 23.6%    |
| R 台数 | 45,000     | 54,017     | 39,777     | -26.4%      | -11.6%   |
| E 台数 | 8,615      | 8,857      | 9,072      | 2.4%        | 5.3%     |
| 合計   | 53,615     | 62,874     | 48,849     | -22.3%      | -8.9%    |

\*WR 社資料をベースに CNA レポート・ジャパンにて作成。

R・・・ルームタイプ専用端末、E・・・デスクトップ型専用端末  
I・・・インフラ製品

## Videoconferencing Group Units WW Q1 2009



2009 年第一四半期 (1 月-3 月期) ワールドワイドテレビ会議市場 (台数ベースシェア) (WR 社資料)

WR 社の調査によると、2008 年第一四半期 (08 年 Q1) と 2009 年第一四半期 (09 年 Q1) を比較 (対前年比) すると、売上および販売台数関連の統計数値はマイナスになった。出張の削減やコストの削減、CO2 削減などの会議システムの効

果にもかかわらず、企業における全般的なコスト削減による投資意欲の減退といった不可抗力に足を引っ張られた形になったと同社では分析する。「アブラハム・リンカンが大統領に就任して以来の出来事だ。」(Andrew Davis 氏の冗談、それだけビデオ会議市場は、売上、台数ともに長年堅実に成長してきたという意味。) そういった厳しい結果の中でも、インフラ製品 (MCU、ゲートキーパなど) においては、対前年比 23.6% を記録している。

一方、デスクトップ型専用端末 (オールインワンタイプの製品を指していると思われる) は、対前年比で売上はダウンしたが販売台数は上がっている。WR 社によると、タンバーク社の「E20」の市場投入と、競争激化による価格低下が背景にあるのではないかと見ている。

この 2009 年第一四半期では、Team China (中国のビデオ会議メーカー複数社) の「何らかの理由による競争力減 (uncharacteristic weakness)」により、ポリコム、タンバーク社両社とも市場のシェアを得た。また他のマーケットプレイヤーも景気の悪化の中であるが、市場において成長しているようだ。

今四半期、タンバークが端末台数において初めてワールドワイドビデオ会議市場でトップになった。過去数年にわたりタンバークはポリコムのシェアに徐々に追いついてきた中で、最近タンバーク社が低コストの E20 を発売した。そのラインナップ追加が台数増に貢献したのではないかと推測する。

## The Wainhouse Research Bulletin

Vol. 10 #11 May 21, 2009 page 1 をベースに CAN レポート・ジャパンにて要約。

WRB は無料の PDF ニュースレター (毎週発行) 下記サイトに詳細。



Wainhouse Research, LLC

<http://www.wainhouse.com/>

## セミナー・展示会情報

### <国内>

これからの新しいビデオコンファレンスを読み解く  
次世代ビデオ会議システムセミナー2  
既存のビデオ会議とはここが違う。導入効果を発揮出来る使い方や提案例を紹介  
日時：6月16日(火)、19日(金)、26日(金)  
会場：VTVジャパン 東京・大阪ショールーム  
主催：VTVジャパン株式会社  
詳細・申込：<http://www.h264svc.net/pressroom/pressroom2.html>

日経新聞1面でも取り上げられた!!インフルエンザ・不景気・・・そんな嫌なキーワードに打ち勝つ方法  
～web会議の効果的な使い方について～  
日時：6月16日14:00～15:00  
会場：オンラインセミナー  
主催：株式会社ブイキューブ  
詳細・申込：  
<https://vcube.smartseminar.jp/public/seminar/view/56>

すぐに効果が出るITを使ったコスト削減策のご紹介 出張費削減やグループウェア見直しからオフィスソフトの費用削減まで  
日時：6月18日(木) 14:00～16:30(受付:～13:30)  
会場：日本IBM 福岡事業所 6階 601教室  
主催：日本アイ・ビー・エム株式会社  
共催：株式会社大塚商会/ヤマハ株式会社  
詳細・申込：  
<http://www-06.ibm.com/software/jp/lotus/events/fukuoka0618/index.html>

すぐに効果が出るITを使ったコスト削減策のご紹介 出張費削減やグループウェア見直しからオフィスソフトの費用削減まで  
日時：6月19日(金) 14:00～16:30(受付:～13:30)  
会場：日本IBM 広島事業所 13階 13-1教室  
主催：日本アイ・ビー・エム株式会社  
共催：株式会社大塚商会/ヤマハ株式会社  
詳細・申込：  
<http://www-06.ibm.com/software/jp/lotus/events/fukuoka0618/index.html>

日経新聞1面でも取り上げられた!!インフルエンザ・不景気・・・そんな嫌なキーワードに打ち勝つ方法 ～web会議の効果的な使い方について～  
日時：6月20日11:00～12:00  
会場：オンラインセミナー  
主催：株式会社ブイキューブ  
詳細・申込：  
<https://vcube.smartseminar.jp/public/seminar/view/57>

『大学および大学連携における遠隔教育の先進事例』セミナー

日時：6月24日(水)13:30～17:30(受付13:00～)  
場所：パレスサイドビル 東コア9階 マイナビルームL (東京都千代田区一ツ橋)  
つるやホール 第2会議室 (大阪市中央区本町)  
共催：VTVジャパン株式会社(セミナー事務局)  
NPO 先端教育情報研究所  
協力：株式会社毎日コミュニケーションズ  
詳細・申込：<http://www.vtv.co.jp/seminar/20090624.html>

株式会社メディアプラス主催 体験型プライベートセミナー「今すぐできる」ユニファイド・コミュニケーションとは  
日時：6月26日(金) 13:30-16:30  
会場：メディアプラス内 テレビ会議デモルーム(東京、飯田橋)  
主催：株式会社メディアプラス  
詳細・申込：  
[http://www.mediaplus.co.jp/news/2009/0609\\_seminar/index.html](http://www.mediaplus.co.jp/news/2009/0609_seminar/index.html)  
\*CNAレポート・ジャパンの橋本も講演させていただくことになりました。

製薬ITソリューションセミナー  
日時：7月1日(水)～3日(金)  
会場：東京ビックサイト  
主催：リードエグジジションパン  
詳細・申込：<http://www.interphex.jp/ipj/jp/it/index.phtml>  
\*プリンストンテクノロジー&ポリコムジャパン、三菱電機システムサービス&日本タンバークなどテレビ会議系の出展、セミナー講演もあり。

## 編集後記

今号もお読みいただきまして誠にありがとうございました。

読者の皆様の中では既にWRB英語版の方をご覧になられたかもしれませんが、WR社が発表した市場数値は厳しい結果となりました。こうした数値がでると会議システムの将来はという悲観論が出てくるのですが、私はそうは思いません。こういった景気の悪化にあっても、数十から数百台規模のHD端末導入などの事例も国内外で聞かれます。状況的に致し方ないですし、今年後半から来年以降に回復することを期待しています。

今週は明日からフロリダオーランドのInfocomm Orlando 2009へ行ってみます。Infocommは初めてで、取材がどこまで出来るか現地に行ってみないとわからない状況ですが、可能であればレポートとしてご報告できればと思っています。

帰国後26日は、メディアプラス主催のセミナーにて市場動向について講演をさせていただく予定です。よろしければご参加いただければ幸いです。

今後とも宜しくお願い致します。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本 啓介